

4月 国の基準を上回る最新施設 東部クリーンセンターがオープンします

平成12年10月から建設を進めてきました「東部クリーンセンター」が本年4月から本稼働を開始します。老朽化が進んだ東部清掃事業所に替わり、快適な市民生活の維持と環境保全のため、現在稼働中の西部清掃事業所と合わせて、市内のごみの全量を適切・安全・安定に処理していきます。

施設の運転にあたっては、周辺環境に配慮することにも、循環型社会に向けての取り組みを進めていきます。今回は、この施設の概要をお知らせします。

※問い合わせ 東部クリーンセンター建設現場事務所 (0941-00000)



東部クリーンセンター全景

施設の概要

東部クリーンセンターには大きく分けて、実際にごみの処理を行う工場棟、施設全体の管理を行う管理棟、リサイクルの啓発施設となる(仮称)リサイクルふれあい館の3つの建物があります。主な施設の概要は表1のとおりです。

◎(仮称)リサイクルふれあい館については、本号の号外でお知らせしています。

表1 東部クリーンセンター施設概要

項目	施設の内容
施設の名	東部クリーンセンター
施設の種	一般廃棄物処理施設
施設の所	所沢市日比田895-1
敷地面積	約5.98ha (都市計画決定区域)
建管理棟	建築面積約888㎡・延床面積約1,743㎡/地上2階建鉄筋コンクリート造
工場棟	建築面積約13,466㎡・延床面積約32,654㎡/地上6階・地下2階建鉄筋コンクリート造、一部鉄筋鉄骨コンクリート・鉄骨造
保管庫・ストックヤード棟	建築面積約779㎡・延床面積約779㎡/地上1階建鉄筋コンクリート造
要(仮称)リサイクルふれあい館	建築面積約1,217㎡・延床面積約2,830㎡/地上3階建鉄筋コンクリート造

東部クリーンセンターは、今後のごみ量の増加および多様化に対応するため、最新の公害防止技術を取り入れた施設として、市民ニーズや周辺地域の環境に十分適合させる等、環境に配慮し、かつ効果的なごみの処理システムを確立することを基本としています。

主な処理プラントの概要

市では、ごみを「燃やせるごみ」「燃やさないごみ」「粗大ごみ」「びん・かん(4月からスプレィかんも追加)」「プラスチックごみ(4月からはプラスチック)」「ペットボトル」「新聞・雑誌・段ボール」「有害ごみ」の8種類に分別しています。

これらのうち「燃やせるごみ」は焼却処理施設で焼却され、ほかの7種類はリサイクルプラザで、破砕や選別等により資源物を回収する等の処理することになります。

環境負荷の低減

東部クリーンセンターは、高度な排ガス処理設備(表2参照)を設置し、ダイオキシン類を国の排出基準値の10分の1にあたる0.01ng-TEQ/Nm³以下に抑えています。また、他の物質についても国および県の排出基準値に比べ厳しい公害防止自主規制値(表3参照)を定める等、生活環境への負荷の一層の低減を図っています。

予備性能試験時の測定結果は、排ガス中ダイオキシン類濃度は、1号炉で0.0032、2号炉で0.0013ng-TEQ/Nm³との測定結果が出ています。



図1 東部クリーンセンターへの案内図

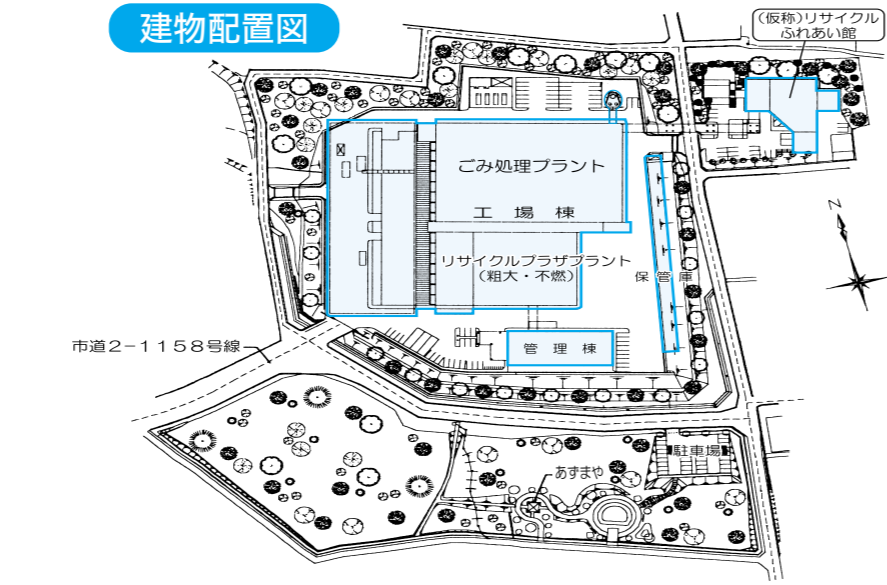


図2 ごみ搬入経路 (Diagram of the waste entry route showing the entrance and exit points)

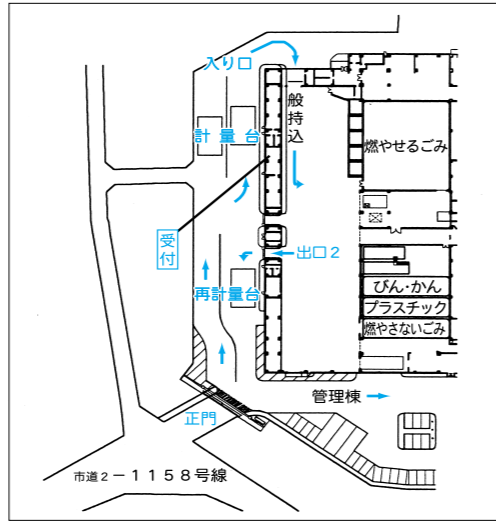


表3 東部クリーンセンターに関する所沢市の公害防止自主規制値

項目	自主規制値
ばいじん	0.01g/Nm ³
塩化水素(HCL)	20ppm
硫黄酸化物(SOx)	20ppm
窒素酸化物(NOx)	50ppm
ダイオキシン類	0.01ng-TEQ/Nm ³

自然環境との調和

東部クリーンセンターは、周辺に緑豊かな雑木林が広がり、オオタカの営巣が確認されていることから、可能な限りの既存林の保全と屋上を含めた植栽で緑化に努めています。

敷地全体としては、約55%の緑被率を確保して生活環境上の配慮のみならず、オオタカをはじめとする生態系の保全等、自然環境にも配慮したものと なっています。

外周には植栽を施した高さ5mの土塁を設け、場外への騒音をより遮へいするとともに、工場棟のスケール感も軽減しています。

東部クリーンセンターは、循環型社会へ向けたごみの減量化と資源化を一層推進し、将来にわたるごみの安定した処理を行います。

また、公害の防止に十分配慮した安全処理を行い、自然環境の保全も実現した環境にやさしい清掃施設となつていきます。

市長インタビュー

環境にやさしい 清掃総合施設が完成します

●いよいよ東部クリーンセンターがオープンしますが、センターに寄せる思いをお聞かせください。

齋藤市長 私は常々、市民の皆さんの生活に「緑豊かなゆとり・うるおいのあるまち」を実現するため、都市環境の保全創出を進め、ごみ対策ならびにダイオキシン対策につきましても積極的に取り組んでいます。こうしたなか、環境負荷低減に対する国の基準を上回るごみ処理施設として待望の東部クリーンセンターがオープン運びとなります。

センターでは、各家庭などから日々排出されるごみを安全かつ安定的に処理していきます。

ごみの処理業務につきましては、生活環境への負荷を最大限に低減することももちろん、さらなるごみの減量化・資源化を通じ、循環型社会を築いていくことが極めて重要であると考えます。

このことで、私たちのまち「ところざわ」の豊かな自然、ひいてはかけがえのないこの地球環境を、現在そして将来の市民がともに享受することができるようになります。

私は、『環境にやさしい清掃総合施設』である本センターが、この役割の一翼を担っていくことを大いに期待しています。

そのためには、市民の皆さん一人ひとりのご協力が不可欠です。今後とも引き続き、ごみの減量化および資源化ならびに適正分別へご協力をお願いします。

本センターのオープンにあたりまして、これまでご理解とご協力をいただきありがとうございました近隣住民の方々をはじめとする関係各位、そして、すべての市民の皆様にご心からお礼申し上げます。

ごみの持ち込み方法は

4月から東部クリーンセンターで、家庭ごみの持ち込み受け付けが始まります。

■受付日および受付時間
 広報3月20日号に折り込む「家庭ごみの分け方・出し方」でお知らせします。

■持ち込み経路
 東部クリーンセンターから市道2-1158号線を利用して東部クリーンセンターにお越しください。(図1参照)

■センター内での手順(図2参照)
 ①東部クリーンセンター正門を入り、受付でごみの種類等を伝えられます。
 ②一般用の計量台で計量した後、北側入口より建物内に入ります。係員の誘導により、ごみを降ろします。
 ③西側の出口2から屋外に出ます。最後に再計量台で計量します。なお、4月から有料化となる粗大ごみがある場合は、その料金を納入いただき終了となります。敷地内は徐行運転をお願いします。

表2 東部クリーンセンター処理プラントの概要

項目	施設の内容
焼却処理施設	処理能力…230t/日 (115t/日×2炉) 処理方法…全連続燃焼式焼却炉(1日24時間の連続運転) 処理対象ごみ…可燃ごみ
灰溶解施設	焼却により発生した灰等が当施設で溶融個化(スラグ化)され、無害化および再利用が図られます。 処理能力…60t/日 (30t/日×2炉) 処理方法…電気溶融方式(1日24時間の連続運転) 処理対象物…焼却灰および集じん灰
排ガス処理	バグフィルター、湿式洗煙装置、活性炭吸着装置、触媒脱硝装置の各排出ガス処理設備により処理し、ばいじん、塩化水素、硫黄酸化物、窒素酸化物およびダイオキシン類等を取り除きます。
リサイクルプラザ	●不燃・粗大施設(不燃・粗大ごみの破砕・選別施設) 処理能力…43t/5h ●資源化施設(びん、かん等の選別施設) 処理能力…30t/5h ●プラスチック類資源化施設(プラスチック類の選別施設) 処理能力…15t/5h ●(仮称)リサイクルふれあい館 リサイクル工房、粗大ごみとして出された家具の展示・頒布、リサイクル啓発施設

す。なお、粗大ごみの取り扱いは、広報2月5日号をご覧ください。

■東部クリーンセンターのごみ処理業務については、昨年12月に策定した、所沢市焼却施設等緊急事態対応マニュアル(広報平成14年12月5日号掲載)に基づき安全対策を徹底します。

また、公害防止自主規制値(表3参照)の遵守をはじめとする環境対策に則し、安全と環境に細心の注意を払ってまいりますので、引き続き市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

◎東部クリーンセンター建設現場事務所は、3月10日(月)から管理棟に移転します。

東部クリーンセンターの電話番号は、広報3月20日号に折り込む「家庭ごみの分け方・出し方」でお知らせします。

安全な施設の 運転を願います

中村 菊二さん (松郷在住)

私は、永年この地域に暮らし、この施設の建設も計画のときから見守ってきました。

公害防止に関する設備も充実しており、近隣住民のさまざまな要望にも十分応えた施設だと思えます。

周辺の緑にも十分配慮され、新緑のころが楽しみです。

私たちににとっては、何よりも無事故で安定したごみ処理を行っていたことが一番です。

安全な運転に心がけ、市民から親しまれる施設になって欲しいですね。

ごみの減量化へ 向けて

田澤真佐子さん (中富南在住)

この施設は設備も充実し、情報公開にも配慮したごみ焼却施設だと聞いています。しかし、全てを焼却に頼るのではなく、環境への負担を少なくすることが重要だと思えます。

買い物バッグを持って行く、生ごみの水切りをする、ごみの資源化に取り組むなどといった小さなことから始めるべきではないでしょうか。

我が家では、生ごみを家庭菜園の肥料に利用しています。市民一人ひとりのごみ減量化に対する意識が大切だと思えます。



中央制御室